

# 鑑賞体験会広がり 演劇手話通訳養成も



「劇場体験プログラム」で出演者（左）に声援を送る観客＝4日、東京都文京区

とコントラバスの演奏を披露。養護学校では、子どもたちがチケットを切ったり、開演ベルを鳴らしたりと工夫を凝らして、コンサートホールの雰囲気を演出してもらつた。

導犬用のトイレを設置し、車椅子を常設。障害者への対応について「ニーズを把握し、考えていくたい」としている。県文化政策課によると、文化事業の底上げを図ろうと県 100人が鑑賞した。同団の一人で芸術監督の串田和美さん(74)が演出し、来年2月から県内を巡回公演する演劇「K.テンペスト」でも障害者を招く予定という。

県内では、障害者の芸術鑑賞の機会を増やすため出前公演などをしている。

## 出前公演や参加型講習

分で演じたりするための支援が広がりつつある。知的、発達障害者には、劇場に慣れてもらう体験会を実施。耳が聞こえない人が演技をするための手話通訳の養成講座も開かれている。東京五輪・パラリンピックを見据え、国も障害者の芸術鑑賞や参加支援を予算に盛り込み、後押しする方針だ。

「Hンサー」トが始まる合図です。大きな音がしますよ。鳴つたら明かりが暗くなります」

賞するための「劇場体験アート」  
グラム」。はじめに司会者が、  
開演前のブザー音の理由など  
について、約140人にゆづ  
くりと語りかけた。

の準備のためだと解説。鑑賞中に立ち上がる、後ろの人があら見えなくなるというマナーも確認した。リラックスのため観客に両手を使って頭上に輪をつくりらせ「劇場って楽しい」と声を出して開演を待った。

障害者も舞台樂しんで  
東京五輪・パラへ国も後押し

ティによると、知的発達障害のある人は、日常とは違つた劇場の音や照明などに過敏に反応し、驚きや不安を感じることがある。だが環境を事前に説明すれば、安心して楽しめる可能性があるという。この口も、館内を暗くするには舞台を見えやすくするためで、ブザーが鳴るのは警報で、

# 信濃毎日新聞

1873年(明治6年)創刊

夕刊

発行所  
信濃毎日新聞社  
長野本社 〒380-8546  
長野市南県町 657番地  
電話(026)  
受付 236-3000 編集 236-3111  
販売 236-3310 広告 236-3333  
松本本社 〒399-8711  
松本市宮田 2番10号  
電話(0263) 編集 25-2151  
販売・広告・事業 25-2153  
©信濃毎日新聞社 2016年

**福祉タクシーの  
ご利用をお待ち  
しております**

やさしさと真心で  
お出掛けをサポート  
いたします。  
お気軽にお電話  
ください

信毎ホームページ  
[www.shinmai.co.jp](http://www.shinmai.co.jp)  
読者センター  
026-236-3215  
編集応答室  
026-236-3111  
購読申し込み  
0120-81-4341

さまざまなジャンルの演奏を約1時間楽しんだ後、知的障害のある小川真さん(17)は「おもしろかった」と笑顔で話した。ビッグ・アイでは、障害者向けの手話や点字によるサザーネトに加え、2014年からこのプログラムを開始。延べ約1900人が映画や音楽、ミュージカルを体験した。事業プロデューサーの鈴木京子さんは「行きたい劇場に行けるようになれば日常の選択肢

障を  
は事者示らへ  
が増える」と意義を話す。  
知的障害のある長男(13)  
プログラムに参加した堺市  
高橋沙織さん(44)は「以前  
鑑賞中に喜んで跳ねてし  
い、冷たい視線を感じるこ  
もあつたが、鑑賞経験を積  
だことで、ちゃんと座つて  
られるようになった」と喜  
を語る。

11月に舞公演・演劇における手話通訳養成講座を開催。受講者は聴覚障害のある役者への適切な通訳の方法を学んだ。20年の東京五輪・パラリンピックに向け、芸術分野でのこうしたバリアフリー化は課題の一つ。厚生労働省は障害者の鑑賞支援や芸術参加を促進する費用を17年度予算案で拡充した。超党派の国会議員連盟も、障害者文化芸術推進法案をつくり、成立を目指している。